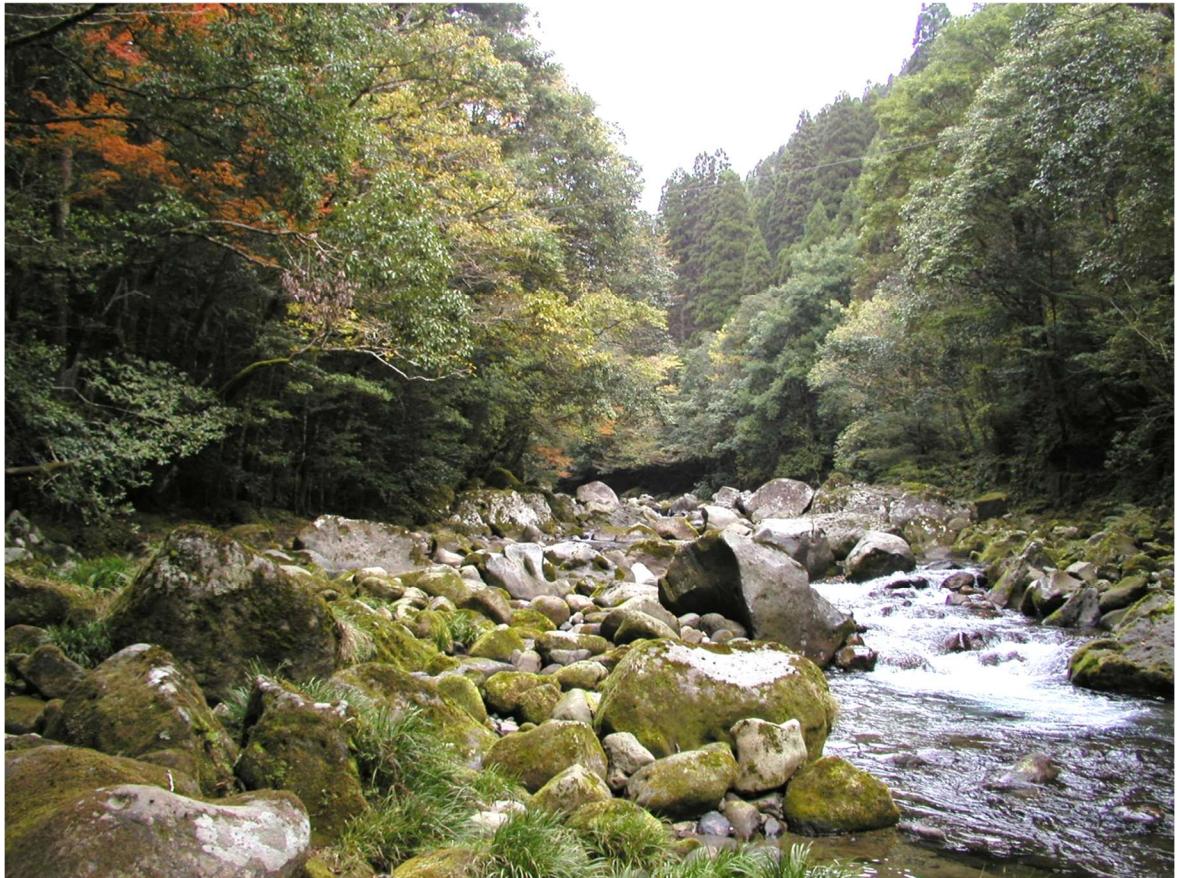


す ぐ に い っ き わ か い わ か い え び の の こ と
え び の の え び の の え び の の え び の の



すいどう
えびのの水道



せんだいがわじょうりゅう
【川内川上流(クルソン峡)】

し れ き し み ん ぞく し り よ う か ん
え び の 市 歴 史 民 俗 資 料 館

もくじ 目次

参考・引用文献

〈圖書〉

資料名	発行年	著者・編者	出版社・発行所など
えびの市水道事業経営戦略（後期計画） 平成30年度～令和9年度 (令和6年度～令和9年度)	令和6年3月	えびの市水道課	えびの市水道課
令和6年度 水質検査計画		えびの市水道課	えびの市水道課
えびの市史 下巻	1998年3月	えびの市郷土史編さん委員会/編	えびの市
広報えびの縮刷版Ⅰ（昭和52年4月号）	1990年12月	えびの市制施行20周年記念 事業実行委員会	えびの市制施行20周年記念 事業実行委員会
今日からモノ知りシリーズ トコトンやさしい 水道の本	2011年11月	高堂彰二/著	B&Tブックス 日刊工業新聞社
環境学習に役立つ！ わたしたちの地球環境と天然資源①水	2018年4月	本間慎/監修 こどもくらぶ/編	株式会社 新日本出版社

すいどう 1. 水道がなかったころ



すいどう かわ みず い ど みず ち か すい
水道のないころは、川の水や、井戸水(地下水

く あ つか
を汲み上げたもの)を使っていました。

これらは、とても大切なものです、飲み水や洗い
もの ふ ろ みず つか
物、お風呂の水などに使われていました。



くるまいど
車井戸

ほうげん
方言: ツリン (釣井戸)
かっしゃ つか みず いど
滑車を使って水をくむ井戸



てお
手押しポンプ

て じょうげ うご
手でハンドルを上下に動かすと
あつりよく みずぐち いどみず
圧力におされて水口から井戸水
がでできます。



くるまいど あら もの ひと
車井戸で洗い物をする人

しゃしん じょうわ ねんだい ごろ
写真は、昭和40年代 (1965)頃のものです。

げんざい かわ みず わ みず い ど みず し ょう
※現在も川の水や湧き水、井戸水を使用されており、地区で管理されている所
ち く かんり ところ
もあります。 飲み水は衛生対策が必要とされています。

2. 水道の歴史



日本水道の歴史は、江戸時代以前までさかのぼります。

日本最古の水道施設は、北条氏康(1515~1571年)が小田原を支配した頃(室町時代)、



早川から小田原城下に飲み水

として水を引いた「小田原早川

上水」が最古の施設と考えら

れています。

また、東京に初めて水道ができた

のは天正18年(1590)江戸幕府が

開かれる13年前、徳川家康が家来



の大久保藤五郎に命じて作らせた「小石川上水」

と呼ばれるものが最初の施設と伝えられています。

す。

日本初の「近代的水道施設」は、明治20年(1887)横浜で給水が開始されました。

横浜は、沼や海を埋め立てて拡張してきたので、井戸を掘っても海水が混じるなど良質な水に恵まれませんでした。それに加えてコレラなどの伝染病や大火事などで、当時の人々を悩ませていました。

そこで、神奈川県はイギリス工兵中佐のヘンリー・スペンサー・パーマーを設計者として迎え入れました。パーマーは、水に十分な圧力を持たせることにより、給水だけではなく、消防にも効果があることを当時の日本人に教えました。



きんだいてき すいどう いけ かわ みず いんよう
近代的な水道とは、池や川の水をそのまま飲用

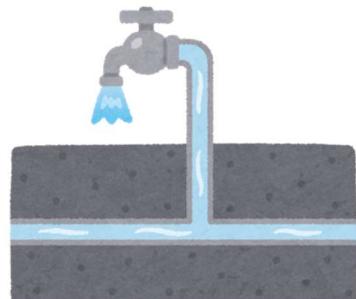
おお か そ う ち つか の
するのではなく、大がかりなろ過装置を使って飲

みず いし き かん てつせい
み水をつくり、石や木でできた管ではなく鉄製の

かん つか あつりょく くわ おく すいどう
管を使って圧力を加えて送る水道のことです。

てっかん あつりょく た
鉄管は圧力に耐え、

たか ところ みず おく
高い所にも水を送れます。



そと おせん ふせ じやぐち
外からの汚染も防ぐことができます。また、蛇口に

ほ ほ りょう みず つか
よって、欲しいときに欲しい量の水を使うことがで

きます。

きんねん てっかん きんぞくせい みず
近年では、鉄管などの金属製(サビやすく、水
も漏れがする)ではなく、サビの発生しない
じゅしせい すいどうかん つか
樹脂製の水道管が使われるようになってきて
います。



3. えびの市の水道



①えびの市の水道はいつごろできたの？

昭和45年(1970)えびの市が誕生しました。そして、昭和50年(1975)「えびの市上水道事業」が始まりました。

えびの市上水道は昭和52年(1977)着工、昭和55年



(1980)市内全域に給水ができるように整備を進めていきました。

令和5年3月現在、市内の8,384戸、16,694



人(給水普及率は94.4%)に

水道水が届けられています。

※給水普及率は、「令和6年度 水質検査計画」えびの市水道課 水道事業の概要より



し すいどう みず みず ②えびの市の水道の水はどこの水？

えびの市は、九州山脈の広大な自然からの
し きゅうしゅうさんみやく こうだい しぜん

めぐ くまもとけん みやざきけん けんざかい
恵みである熊本県と宮崎県の県境にある

また ごろうだに せんだいがわじょうりゅう ひょうりゅうすい ちじょう なが
又五郎谷(川内川上流)の表流水(地上を流れ

かせん みず どうすいろ ない ゆうすい
る河川の水)と、導水路トンネル内からの湧水を

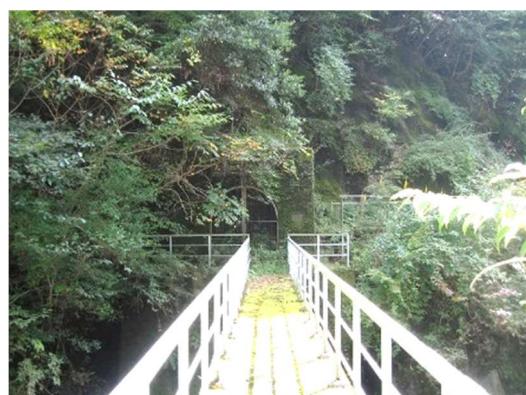
こんごう みず げんすい へいせい
混合した水を 原水としています。また、平成30

ねん がつ やまうちちくない しんそうちかすい ふか
年4月より山内地区内の深層地下水(とても深

い所にある地下水)を追加しています。



③えびの市の水道の送り方



てんぐやま どうすい
天狗山には、導水トン

すいげんち と
ネルという水源地から取

い みず じょうすいじょう
り入れた水を浄水場

おく へ送るためのものがあ

かきのき ばるじょう
り、そこから、柿木原浄

すいじょう おく
水場へと送られます。



てんぐやま どうすい
天狗山・導水トンネル

すいどう みず たか ひく たか
水道の水は、高いところから低いところへと高さ

りよう すいげん じょうすいじょう じょうすいじょう
を利用して、「水源」から「浄水場」へ、「浄水場」

はいすいち はいすいち
から「配水池」へ、「配水池」から

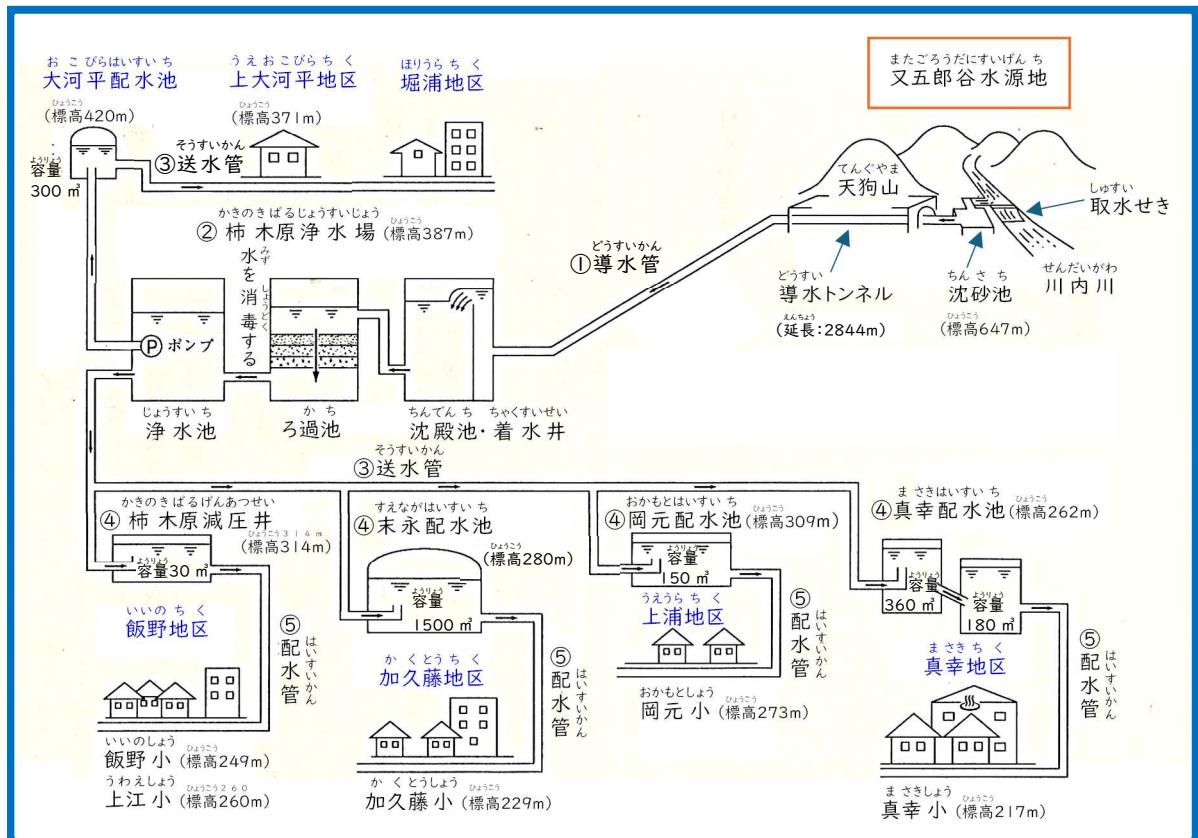
がっこう かてい
「学校やみんなの家庭」へ、

そうすいかん はいすいかん
送水管や配水管を

とお おく
通り、送られます。



えびの市水道の水の送り方(図)



『えびの市史 下巻』第8編現代第2章市制施行第2節行政機構と議会3水道 「えびの市水道の水の送り方」より

【① 導水管】

導水トンネルを通ってきたクルソン峠の水を柿の木原浄水場まで、はびます。

【② 柿の木原浄水場】

ここは原水に手を加えて飲用の水にするところで、水道の心臓部にあたります。この浄水場には、水をきれいにする沈でん池や水の中の微細な浮遊物や細菌などを除くろ過池、そして消毒があり、安全な水にします。

【③ 送水管】

浄水場から配水池に浄水を送ります。



【④ 配水池】

学校や各家庭に送る水を貯えておきます。

【⑤ 配水管】

水を学校や各家庭に送ります。

『広報えびの縮刷版I』昭和52年4月号より

④えびの市の水道はだれが管理と運営をしているの？

水道とは、飲み水を学校やみなさんの家など

に配るための設備です。

水道の管理と運営とは、その設備を良い状態

に保ち、みなさんの所に水を

配る仕組みを進めていくことです。

えびの市の水道水はえびの

市水道課が管理と運営をしています。



水源地の取水口

(又五郎谷の川内川から水を取り入れる所)



←この取水口よ

り浄水場まで、およ

そ2,800mものトン

ネルを通って水が

運ばれます。

現在の水道施設は建設されてから長い年月

が経ち、老朽化が進んでいます。また、地震に対

して水道水をみんなに供給

できるための施設の耐震化を

進めいくことも課題となっています。



4. 水は大切に使いましょう



みんなが飲んでいる水は、川内川最上流

(又五郎谷)が水源地となっています。

では、川の水はからどこからやってくるのでしょうか。

ほとんどの水は、海水が蒸発して空へ登って雲となり、雨や雪になって地上に降ります。そして、一部は地面にしみこんで地下水となり、また、山の森林も水をたくわえます。

しみこまなかつた水は地表を流れて川となり、



海に流れていきま

す。地球の水は、ぐるぐるまわっているのです。



りよう みず
わたしたちが利用した水

かわ うみ なが
も、川から海に流れ、やがて

すいどうすい りよう かわ
水道水として利用し、また川

なが みず りよう
へと流れていきます。きれいな水を利用するため
にはどうしたらよいでしょうか。

かわ
それは、川をよごさない、ということです。川をよ
ごさないためには、あぶら なが
油やごみを流さないようにし
ましよう。そして、みず つか き
水を使いすぎないように気をつけ
ましよう。



せんだいがわじょうりゅう きょう
川内川上流 (クルソン峠)



せんたいがわじょうりゅう きょう
川内川上流 (クルソン峠)

発行/2025年1月

しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

〒889-4311 宮崎県えびの市大字大明司 2146-2 TEL/FAX 0984-35-3144

ホームページ



X (旧Twitter)

